

令和元年度 救護施設旭寮 事業報告書

法人理念及び基本方針に従い、救護施設旭寮の事業を下記のとおり行った。

1 運営及び設備

- (1) 施設運営及び利用者への福祉サービスの質の向上を図るため、関係機関及び団体等の研修会に可能なかぎり出席して資質の向上に努めた。
- (2) 職員研修会を行い職員の資質及び福祉サービス提供の向上に努めた。また、利用者職員との全体会議、職員会議を定期的に行った。
- (3) 施設に対する理解と認識を高めるため、地元地域への会報の回覧、地域社会に施設機能等を開放したほか、その他あらゆる機会を通じ啓蒙宣伝に努め、地域との交流を積極的に行った。
- (4) 施設の規律秩序の維持と組織の一体性を欠かさないように職員連絡会議を行うと共に連絡を密にするため利用者職員全体の朝礼を行った。
- (5) 各種委員会を機能させ、また、ケース担当のチーム化を図り、よりきめの細かい支援、サービスを目指した。
- (6) 第三者評価を受審した評価結果を参考に提供サービスの向上に努めた。
- (7) ゆめのは居室の定員を4名とし下記の受け入れを可能な限り行った。
 - ①福祉事務所等からの緊急一時保護並びに生活困窮者等の受入。
 - ②長野保護観察所からの緊急的住居確保・自立支援対策事業対象者の受入。
 - ③長野市生活困窮者一時生活支援事業対象者の受入。
- (8) 生活困窮者就労訓練事業を関係機関と連携しながら取り組んだ。

2 生活支援サービス

- (1) ケースワーク
個別支援計画により、身体的・精神的自立を目的として、個々の年齢・生活歴・障害程度・日常生活の状況等を考慮した、よりきめの細かい個別サービスを提供した。
- (2) 作業指導
労働の尊さと喜びを知り、施設内外への作業参加が自主的に行えることを尊重しつつ労働の価値とその喜びを体得し、自立・勤労精神の育成を図った。
- (3) 教養娯楽
音楽・運動に親しみ、情操と健康の向上に努め、スポーツ・舞踊・歌・ゲーム等を誕生日会、納涼祭、忘年会を中心とした行事に向け支援した。
- (4) 機能回復、減退防止に対する配慮
高齢化・重度化に合わせて、ラジオ体操・歩行訓練を行うほか、散歩・リハビリ等により機能回復・維持への意欲を高めるためのあらゆる手段を講じていくことに努めた。
- (5) 行事
年間スケジュールに沿って行事を実施した。
- (6) 自治会活動への支援
生活の質を利用者が自ら高めるために組織された自治会の活動を支援した。
- (7) 地域移行支援事業
 - ①救護施設居宅生活訓練事業を取り入れ、居宅生活への移行を支援した。
 - ②相談員（精神保健福祉士）を配置し、居宅生活訓練者へよりきめの細かいサービス提供に努めたほか、地域との連携強化を進めた。
 - ③保護施設通所事業を取り入れ、居宅生活訓練修了者への継続的な支援、地域の生活困窮者への相談援助事業を行った。

居宅生活訓練事業の実績

	H31 4/1	R2 3/31	備 考
男	1名	0名	・(R1.11.30) 終了・退寮
女	0名	0名	
計	1名	0名	

3 衛生管理

- (1) 定期健康診断を行った。
- (2) 施設内外の清潔を保つため清掃・消毒・殺虫駆除等を行った。
- (3) 風邪・コロナウィルス感染症等の予防のため、手洗いとうがいの励行を促すと共に秋にインフルエンザ予防接種を本人又は家族の承諾を得て実施した。
- (4) 食事前の手洗い、手指消毒を指導した。
- (5) 浴槽の衛生管理として次のことを実施した。浴槽清掃を湯の張り替え時のほか、あんどわーくに週1回の清掃を依頼して行った。残留塩素検査を入浴前に行った。
- (6) 受水槽の法定点検・水質検査を年1回行った。

4 防災対策

- (1) 防火計画に基づいて定期的に避難訓練を実施するとともに防火器具・避難経路等の点検を行った。
- (2) 大規模災害想定避難訓練を消防署立ち会いのもと9月3日に実施した。
- (3) 夜間想定避難訓練を10月24日に実施した。地域住民団体等との災害時の協力協定による応援協力をスムーズに行い密接な連携を深めるべく訓練に参加していただくとともに評価を受けた。
- (4) 防火設備、消火設備並びに火災報知設備の保守点検を業者に委託し行った。
- (5) 漏電予防検査を業者に依頼し実施した。
- (6) 災害に備えて2日分の水・食糧の備蓄を給食業者に保管させるとともに、施設内でも1日分の水・食糧を備蓄した。
- (7) 長野市と災害時の福祉避難所の協定を結んだことから災害時の協力要請に備えた。

5 給食

- (1) 給食業務の外部委託に伴い、委託業者と密接なる連携を図った。また、委託業者とは定期的に打合せ会議を行った。
- (2) 年齢、身体的状況などを考慮して栄養価は目標量を不足しないようにするほか、嗜好調査を実施し利用者それぞれに対応した食事を提供できるよう努力した。
- (3) 食中毒の発生を防止するため関係機関の指導に従い最善の措置を講じた。

6 実習生、ボランティア等の受け入れ

業務に支障のないことを前提にして下記の実習生を可能な限り受け入れ、社会福祉の人材育成並びに社会福祉体験実習の一翼を担った。

- ・社会福祉関係大学生及び社会福祉専門学校生
- ・中学生（体験学習）

また誕生日会・あさひまつり等イベントの出し物において各種団体等への出演を依頼してボランティアとして出演いただいた。

受け入れ実績

受け入れ者区分	人 数
専門学校実習生	2名
短期大学実習生	2名
大学実習生	1名
体験学習（中学生）	2名
ボランティア	60名

参考資料

①入所率（令和2年3月31日現在）

定員80名入所率	一割増88名入所率
100%	94.58%

②利用者の異動

（単位：人）

区 分	H31年 4月1日	入 寮（19名）			退 寮（21名）			R2年 3月31日
		自宅	病院・ 他施設	やよいの	病院・ 他施設	死亡	自立	
男	55	6	4	1	11	2	1	51
女	30	4	4	0	5	2	0	32
計	85	10	8	1	16	4	1	83

③第三者委員の面談における利用者からの意見要望件数（延べ件数）

生活に 関する こと	家族に 関する こと	退寮に 関する こと	健康に 関する こと	同僚に 関する こと	行事に 関する こと	外出に 関する 事	食事に 関する こと	職員に 関する こと
27件	12件	9件	8件	8件	7件	6件	3件	3件

④全体会議・自治会・意見箱からの意見要望件数（延べ件数）

生活に関 すること	施設整備・備品 に関する こと	行事に関 すること	食事に 関する こと	衛生に関 すること	同僚に関 すること
11件	4件	4件	2件	2件	2件

⑤事故の件数

転倒	誤薬・落葉等	対人トラブル	誤嚥・ むせ込み	紛失・破損	無断外出	自傷行為
62件	29件	12件	4件	2件	2件	1件

窃盗	その他
1件	17件

- ・施設内全事故件数 130 件中主だったものである。
- ・前前年度 368 件→前年度 200 件→130 件となり事故自体減少傾向にある。
- ・施設内事故で最も多かったのは転倒、それについては変化なし。次いで誤薬・落葉が 2 位、対人トラブルが 3 位であり TOP3 は変更なし。
- ・転倒に関しては利用者の状態の悪化や歩行器を使用せず動き出しによるものが多い。
- ・落葉に関しては利用者の能力的な部分と職員の不注意によるもの。
- ・対人トラブルに関しては、食堂の席変更や居室変更で可能な限り対応している。
- ・事故の報告書について様式変更し事故の対策やその後の評価についてより詳細に記録・実施できるようにした。
- ・データの蓄積と検証を今後も継続し今後も事故の検証を通じて予防に努めていく。

⑥生活困窮者支援事業「ゆめのは」実績（平成31年4月～令和2年3月）

	支 援 内 容							計
	生活 相談	通院 同行	買物 同行	手帳等 各種手続	家事 支援	施設入所 相談	その他 移動支援	
男	4	6	8	3	2	1	3	27
女	2	4	3	0	2	0	2	13
計	6	10	11	3	4	1	5	40

相談件数：16件 支援件数：10件 終了件数：3件 次年度へ継続：7件

年齢：20歳 ～ 89歳

依頼先：地区包括支援センター、市保健センター、地域生活定着支援センター、病院地区連携室

⑦ホームレス等の受け入れ（自立準備ホーム 長野市生活困窮者支援事業）

前年度からの 継続（H31年 4月1日）	入 寮 （入所時依頼関係機関）			
	福祉事務 所	まい さぼ	地域生活 定着支援 センター	警察署
4名	11名	4名	2名	1名

退 寮 （退所先）								次年度へ 継続 （R2年 4月1日）
市外 住居	市内 住居	市外居住 （県内）	無断外出 退去	県外 住居	県内 病院	旭寮 入寮	県内 救護	
5名	5名	1名	3名	1名	2名	2名	1名	2名